

令和6年度第4回青森市地域密着型サービス等運営審議会（書面開催） 意見等と回答について

No.	項目（記載ページ）	意見等	回答
案件1	令和6年度 地域密着型サービスの運営に関する評価について	資料1全般	全体的に具体的数値（会議参加の頻度、研修会の参加頻度、人数）などの記載があればよいと思います。 応募時の記載内容に比較し、「グループホームしおかぜ」以外はあっさりした印象で、特に「惣久」についてはA評価の理由に乏しいと感じました。
		資料1全般	委員からのご意見につきましては、今後の自己評価方法等の参考とさせていただきます。
		資料1-2 11ページ	委員からのご意見につきましては、運営評価結果として各事業所へお伝えします。
		資料1-3 11ページ	空欄箇所については記載漏れでした。今後は事前に確認し記載漏れが無いよう対応します。
		資料1-3、1-4 10ページ	当該法人が運営しているサービス付き高齢者向け住宅に居住している利用者以外の外部の利用者は36人中1人でした。
		看護小規模多機能型居宅介護と地域密着型特定施設入居者生活のサービス利用終了率が高く、終了理由によって評価が変わることもあるため、理由の内訳を知りたい。	御意見があった事業所の終了理由は以下のとおりです。なお、今回のご意見を踏まえ、今後は当該記載項目を追加し、評価を実施することとします。 ○地域密着型特定施設入居者生活介護事業所 惣久 終了者数 13名 うち亡くなった方 10名 他施設等へ 3名 ○看護小規模多機能型共同生活介護事業所まごころ 終了者数 40名 うち医療機関への入院 17名 施設入所 16名 他サービスへの変更 7名

令和6年度第4回青森市地域密着型サービス等運営審議会（書面開催） 意見等と回答について

No.	項目（記載ページ）		意見等	回答
案件 2	令和5年度地域包括支援センターの運営評価について	資料2-1 4ページ	「センターの3職種一人当たり高齢者数の状況が1,500人以下であるか」について、2年連続×である理由がありましたらお知らせください。	本指標は、高齢者数をセンターの3職種の人員配置数で除して算出するもので、本市の一人当たり高齢者数は1,548人となりました。 なお、「青森市地域包括支援センターの包括的支援事業の実施に係る基準を定める条例」に規定する人員配置数（高齢者数2,000人ごとに一人）については満たしているところです。
		資料2-4	地域包括支援センターの収入項目のうち、「その他」の内訳をお知らせください。	実習生の受入費や、外部の研修会等に参加した際の交通費、住宅改修の理由書作成に係る手数料等になります。
		資料2-2 8ページ	「SNSやHPの情報発信力が弱い」とコメントされた包括がありましたが、SNSやHPは情報発信の“入り口”としてはマストですが、最近の傾向を考えると“発信しただけ”だけでは効果が薄いように感じます。高齢者版「マチコミ」など、双方向性を持たせたり、もっと利用者の日常に溶け込むツールや仕掛け（安否確認や地域活動へ参加したら割引クーポンがもらえるなど）を活用すると面白いのではないのでしょうか。高齢者のスマホ普及率も高いことからLINE公式アカウントの導入や、アナログ回帰し、地域メディアとのハイブリッド活用が、今後の情報発信では不可欠と考えます。	本市では、自分の属性を設定し、希望する情報を受信することができる青森市LINE公式アカウントを導入しております。 また、令和7年度からは、高齢者支援・介護予防の一環として、青森市老人クラブ連合会によるごみ出し支援やチームオレンジによる認知症支援の活動をボランティアポイント制度の活動メニューに追加し、ポイント数に応じた商品券との交換や表彰など、活動のインセンティブ（励み）となる取組を開始します。

令和6年度第4回青森市地域密着型サービス等運営審議会（書面開催） 意見等と回答について

No.	項目（記載ページ）		意見等	回答
案件 3	令和5年度総合事業の事業評価について	資料3-2 6ページ	「通いの場」箇所数、参加者実人数、参加率が増えていて、大変喜ばしい。ただ、栄養士会への低栄養予防の講話の依頼等ほとんどなかった。ぜひ活用していただきたい。	本市では、住民主体のつどいの場の運営者等から依頼があった場合には、依頼のテーマに応じて、リハビリテーション専門職等の派遣を実施しています。 令和5年度では、管理栄養士を地域ケア会議に4回派遣しましたが、つどいの場には派遣実績がありませんでした。 今後は、つどいの場において専門職を活用していただくよう、リハビリテーション専門職の職種別やテーマ例が記載されたチラシを作成し、つどいの場の運営者等に対し、周知を図ってまいります。